

機関番号 : 32643

研究種目 : 基盤研究 (C)

研究期間 : 2008~2010

課題番号 : 20520571

研究課題名 (和文) 淳足柵・沼垂城の調査研究

研究課題名 (英文) Research on the fortress of Nutari-no-Saku and Nuttari-Jyo

研究代表者

小林 昌二 (KOBAYASHI SHOJI)

帝京大学・文学部・教授

研究者番号 : 30036470

研究成果の概要 (和文) : 古代淳足柵→越後城→沼垂城の変遷地は、新潟市旧沼垂町山ノ下地区王瀬に埋没との仮説で遺跡発見の調査と文献研究に取り組んだ。

第1は、ボーリング調査を5カ所実施し、埋没古土壌の東の境を明らかにした。

第2は、「長者が伏せたカメ」は奈良県明日香村酒船石遺跡の「亀の石槽」に似ており、「亀池」地で電気とレーダー探査を行い、旧池の底や田の底を確認した。

第3は、新しい知見をもつ4編の論考を口頭や論文で発表した。

研究成果の概要 (英文) : I established a hypothesis that the ancient Nutarinosaku had changed to Echigojo, then Nutarijo, and it has been buried deep in the ground of present Ouse, Yamanoshita area - previous Nutari machi, Niigata city. And I investigated and researched the literature to discover the remains of Nutarinosaku.

Firstly, from 2008 to 2010, I instructed to drill five places and found ancient soil buried deep in the ground around the border: we unveiled the eastern border of the Nutarinosaku. Secondly, I investigated to discover "Chojagafusetakame" by using radar system. There is a thing called "Chojagafusetakame" in Kameike (Tortoise pond). I considered that possibly similar to "Kame no sekisou" at Sakafuneishi ruins in Asuka, Nara. Consequently we found the evidence of bottom of an ancient pond and crop fields after the pond was filled in.

Third, I wrote four theses with new discoveries.

交付決定額

(金額単位 : 円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：古代史

1. 研究開始当初の背景

「沼垂城」墨書木簡出土を基に浅層地質学と連携し、淳足柵発見につながる調査を行う条件が整っていた。

2. 研究の目的

淳足柵発見につながる調査と関連する磐舟柵の調査や文献的な研究

3. 研究の方法

王瀬地区で把握した古土壌の確かな年代と分布範囲を一步一步確認し、併せて文献研究をすすめる

(1) 王瀬地区の古土壌・古水田などのボーリング調査の基礎データを得ることにつとめ、また当地の発掘調査などの成果により当該地域史の理解を進める

(2) 「長者のふせたるかめ」の発見につとめ、この成果に基づきすすめる

(3) 城柵研究について、とくに日本海沿岸地域での新しい調査成果を収集し、日本海沿岸地域や北方地域の関連を追求する、必要に応じて内外の比較研究をすすめる

【基本的成果】

(1) ボーリング調査の成果と当該地域の発掘調査から

① オール・コア・ボーリングの調査と分析は、新潟大学復興科学センターの高浜信行教授とト部厚志准教授の調査研究協力により、以下で行い、分析できた。

【調査と分析対象】

・平成20年度 JFE株式会社、日東紡株式会社

・平成21年度 北越紀州製紙株式会社新潟工場

・平成22年度 オイルメンテナンス新潟、東山ノ下小学校

以上の敷地内で調査を行うことができた。

その成果は、古土壌の分布の有無と、深度を

確実にとらえることができたことにあった。

②当該地域の発掘調査

・平成20年度の新潟市西蒲区四十石遺跡の発見に対する検討報告

・平成22年度の新潟市西蒲区林付遺跡の検討

・同年度の村上市西部遺跡に関する歴史的意義の検討

以上何れも本研究テーマである埋没遺跡の調査研究の進展による視点があつてこそ、沖積平野部の理解を広げることができた。

(2) 長者の「ふせたるかめ」の調査成果
長者の「ふせたるかめ」の埋没想定地について、平成20年6月に西口和彦の調査地電気探査、工藤博司の調査地レーダー探査を実施したが、前進できる具体的な成果につながらなかった。また四天王寺亀井堂の調査は四天王寺職員南邦夫氏ご協力を得た。

その亀井堂の亀形石槽と飛鳥の「亀形石槽」との関連に着目し、種々の調査と考察を試み、貴重な成果の図面を報告書に掲げることができた。

(3) 城柵研究について

① 上越市延命寺遺跡出土21号木簡が、当地に物部の進出した時期が8世紀以前に遡り、付近の6、7世紀代の群集墳造営と結びつく可能性が示唆されたことにより、城柵前史への研究材料がいよいよ整ってきたことがすでに注目されてきていた。すなわち磐舟柵の名称や村上市の日下地名や瀬波地名、あるいは佐渡島の物部神社などの物部氏の痕跡が6、7世紀代の欽明・敏達以降の動向がいよいよ注目すべきことを示唆した。『日本書紀』欽明敏達紀の高句麗来航や肅慎出現記事との対応関係、蝦夷や南北交流の政治的な意味が

改めて問われることとなってきたといえよう。

第三に、海外では恰も『韓国の古代木簡』刊行や韓国木簡学会の発足などの契機となった韓国の調査のために、平成21年3月に国立扶余博物館を訪れて「多利作銘銀釧」（制作年庚子年<520>二月）に見える「多利」の文字を実見し、これが「足」「人」を意味し、「沼足郡」の意味の系譜を検討した。これも6世紀代日本海海域の西方の範囲に関わるものとして興味深いものとなっている。

第四には、平成21年9月に湿地と遺跡との関連を追求するために、ヨーロッパ・イタリア古代ローマ遺跡と湿地帯（ラグーン）の調査をイタリア政府環境省の環境保存学教授のGiampaolo Rallo氏による案内と指導によりパドヴァ大学の発掘によるSanta Maria Di Lugo遺跡やAltino遺跡の埋没状況が、それぞれに-1.5~-1mで実見できたことは、条件の違いはあっても重要な意味があったし、都市キオッジオ創世期の木材の打ち込みなどの様態は、『日本書紀』の記述を理解する上で示唆を与えてくれるものであった。また平成22年9月に歴史考古学に知見の深いアメリカ合衆国南カリフォルニア大学教授Joan Piggot氏に来日いただき、日本の城柵遺跡を伴に実検して意見交換を行うことができたことも調査・研究の方法を鍛える上で貴重であった。

以上に見る調査研究の広がりや、基礎的な研究が本質的にもたざるを得ない問題領域の射程に他ならない。また限られた文献史料の記述は、歴史舞台の極限、頂門の一針に過ぎないと自覚せざるを得ない。こうして史料に有効な独白を求めようとするれば、関連領域のさまざまな手がかりを有効に組織して考察することに他ならないことを常に述べてきたところである。その意味で本調査研究では以前より長者の「ふせたるかめ」を手がかりに調

査を進めたことは、斉明朝の酒船石遺跡調査の亀形石槽に類似するものである可能性が高いと考えてのことであり、この確認が淳足柵の発見につながる可能性がなおも秘められているとの考えからである。この3年間においてその確認は容易ではなく依然として道半ばであるが、結実した成果を以下に掲載したい。

【研究成果】

小林昌二の研究成果

研究代表者が、本研究テーマに直接間接に関わる調査研究をどう発表したかをここに掲げる。

第1節 古代越後国の成立－沼垂城木簡

発見以後の新研究－

第2節 古代越後の蒲原・沼垂郡－新潟市西区の四十石遺跡にふれて－

第3節 淳足・磐舟柵研究の現状と課題

第4節 西部遺跡の歴史的背景－

4. 研究成果

目的地で5カ所のボーリング資料を得て、分布域の一部を確認し、文献での新知見をえた

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

- ① 小林昌二、古代越後の蒲原・沼垂郡「新潟史学」63号1～20頁（2010年5月新潟史学会刊行、審査あり）
- ② 小林昌二、西部遺跡の歴史的背景「西部遺跡Ⅱ」附編1～19頁（2010年12月新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団刊行、審査なし）

〔学会発表〕（計0件）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 昌二 (KOBAYASHI SHOJI)

帝京大学・文学部・教授

研究者番号：30036470

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：